

野辺地町の歴史を引き継ぎ、みんなで創る新しい学校

既存のコンテクストを引き継ぎながら、子どもと地域を守る明快なゾーニングと防災対応の新しい学校

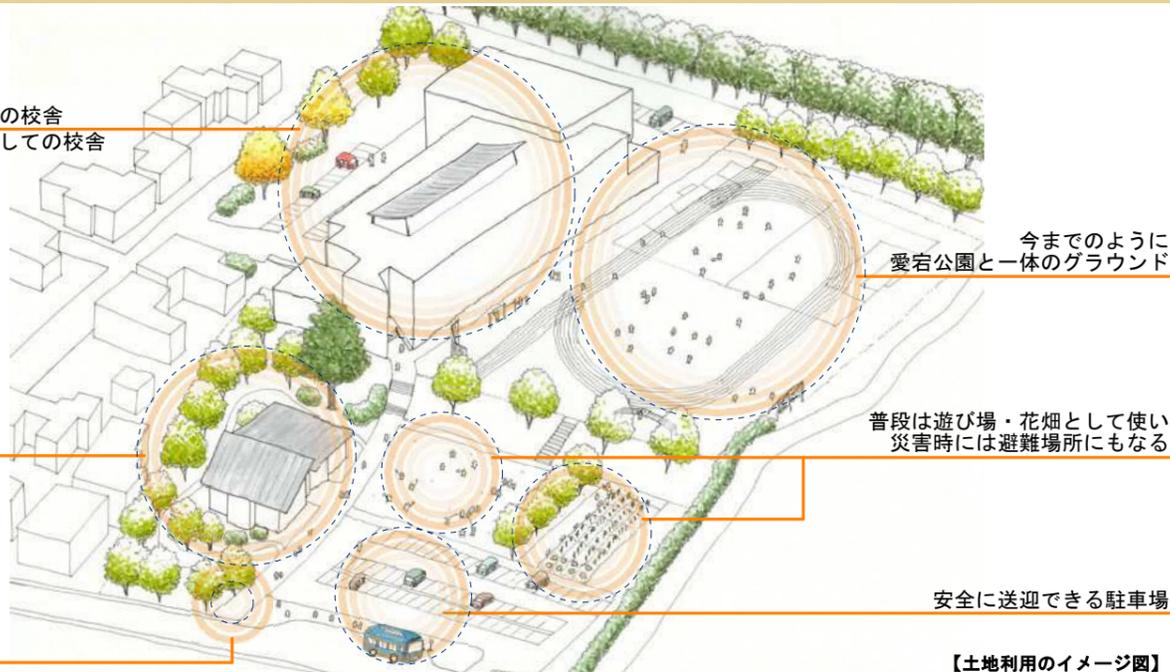
■ 業務への取組方針

敷地を見渡せる2階建ての校舎
地域を照らす常夜灯としての校舎



わが家のような
メインアプローチ
に面した児童館

歩いて来る子も
車で来る子も交わる
メインアプローチ



今までのように
愛宕公園と一体のグラウンド

普段は遊び場・花畑として使い
災害時には避難場所にもなる

安全に送迎できる駐車場

【土地利用のイメージ図】

『子どもたちを育て支える町の拠点となる学校を創る』

野辺地町は、古くから交通の要所として栄え、北前船の寄港地としての歴史が現在の祇園祭や郷土料理に受け継がれています。この町の中心地に新たな小学校「**みんなで創る新しい学校**」の実現を目指します。歴史を重んじながら、**子どもたちが集う拠点として、町民全体が守り育む学校**を築き、**地域の発展と団結の象徴**とします。

この統合により、野辺地町の「の」の字が描く波頭のように、**地域が一体となって躍進する未来**を描きます。

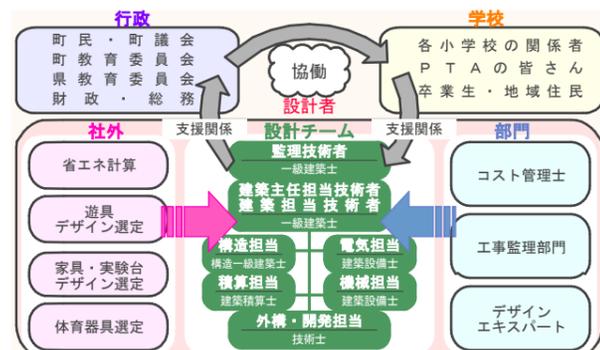
「基本構想」や「教育振興基本計画」を把握し、多くの要望を確実に汲み取るために密接なコミュニケーションを重視しつつ、人口減少や教育の多様化に対応した新たな教育システムの導入に向けて環境を整え、情報収集に努めます。



■ 業務への取組体制・設計チームの特徴

子どもが主役で、地域密着と専門技術で支える学校づくり

● 地域住民や児童の意見を反映するため、ワークショップや協議会を開催し、地域とともに作る学校づくりを進めます。豊富な設計実績を持つチームを編成し、迅速かつ確かな対応を可能にする体制を整えました。社内の専門知識を結集し、経験豊富な管理技術者や一級建築士を中心とした高度な技術者チームが、設計・コスト管理・工事監理などでプロジェクトを全面的にサポートします。



【業務取組体制】

■ 特に重視する設計上の配慮事項

効率的な進捗管理と予算整合性の確保

- 短期間の設計工期を踏まえ、発注者の要望や規模・仕様、事業コスト・スケジュールを精査し、効率的な進捗を実現します。令和10年度の完成を目指し、土地利用や工期を考慮した設計と工事内容を精査します。
- 予算との整合性を確保するため、基本設計・実施設計段階で精度の高い概算を行い、発注スケジュールに沿った工程維持に貢献します。さらに、コスト管理士や施工監理部門と連携し、施工実態や仮設の評価を行い、コストと工事期間の妥当性を確保します。

	R6年度				R7年度				R8年度				R9年度				R10年度			
	4	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12
設計																				
建築設計					基本設計				実施設計											
外構・開発行為					外構・開発行為															
確認申請																				
工事																				
校舎・体育館工事					発注				工事18ヶ月											
屋外運動場整備									発注											
既存解体工事													発注							
児童館建設工事													発注							
駐車場・外構工事																	発注			

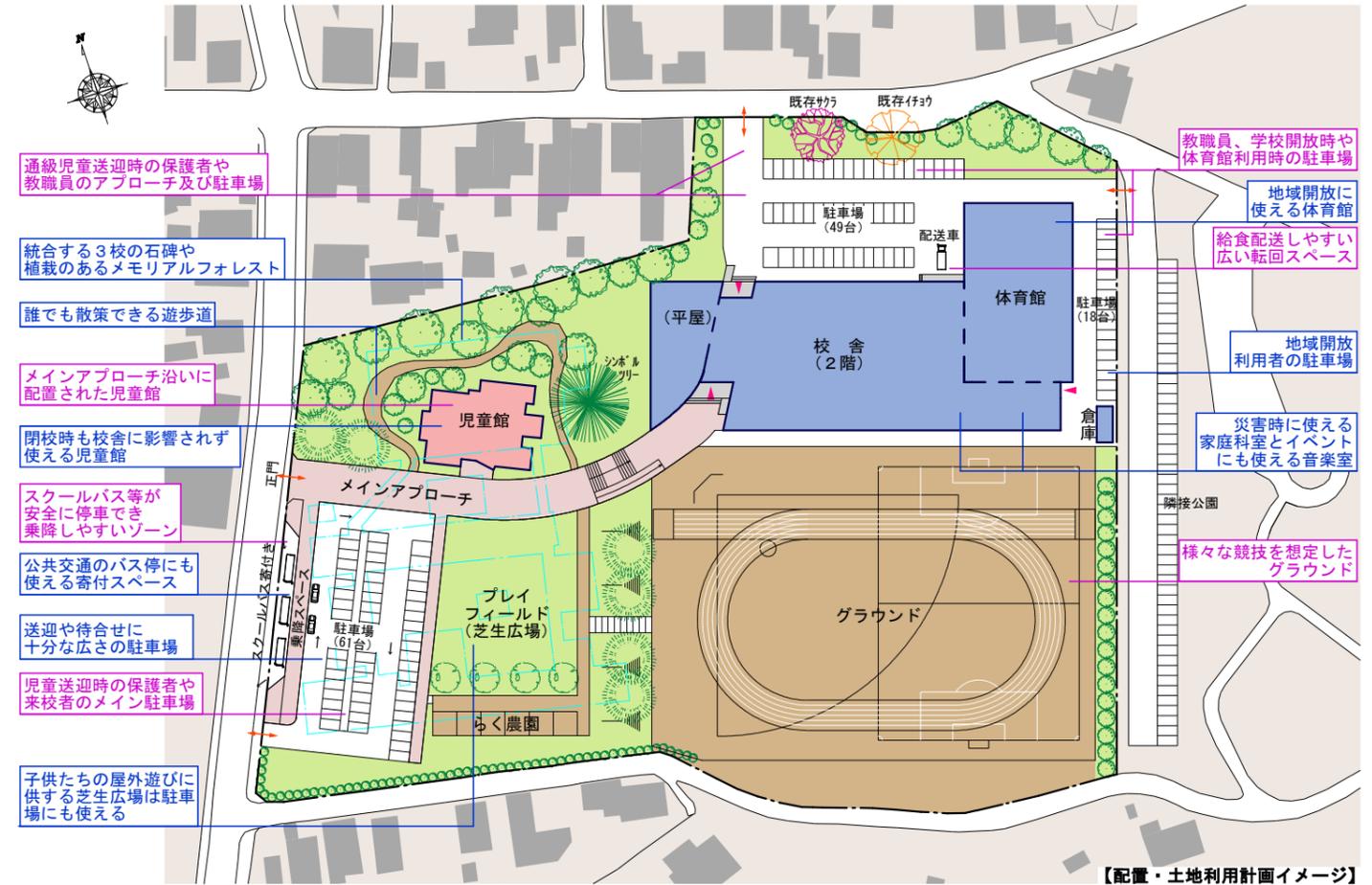
【事業工程表】

持続可能な学校づくりを支える環境配慮型設計

- 新築から既存解体までを視野に、廃材の再利用や資機材の利活用、残土の有効活用を進め、**コスト削減**を実現します。建物の軽量化やPC化、ユニット機器の採用により施工性を高め、CO2排出削減に貢献します。
- 高断熱化と四季に応じた**自然換気**を取り入れ、**パッシブ技術**を活用した快適な室内環境を提供します。また、省エネ設備の導入と電力デマンド管理により、ランニングコストを抑えた**ライフサイクルコスト (LCC)**の低減を目指します。

■ 危険から守り切る学校

赤：安全・安心および思いやり配慮のポイント 青：地域活用や地域配慮のポイント



通級児童送迎時の保護者や教職員のアプローチ及び駐車場

統合する3校の石碑や植栽のあるメモリアルフォレスト

誰でも散歩できる遊歩道

メインアプローチ沿いに配置された児童館

閉校時も校舎に影響されず使える児童館

スクールバス等が安全に停車でき乗降しやすいゾーン

公共交通のバス停にも使える寄付スペース

送迎や待合に十分な広さの駐車場

児童送迎時の保護者や来校者のメイン駐車場

子供たちの屋外遊びに供する芝生広場は駐車場にも使える

教職員、学校開放時や体育館利用時の駐車場

地域開放に使える体育館

給食配達しやすい広い転回スペース

地域開放利用者の駐車場

災害時に使える家庭科室とイベントにも使える音楽室

様々な競技を想定したグラウンド

【配置・土地利用計画イメージ】

『コンパクトな2階建て校舎』で、災害時を想定した様々な安全対策とバックアップ設備

- 校舎は2階建てとし、3階建てと比較して災害時の避難が容易で安全性が高い設計とします。
- 吹抜を利用した「**陽だまりラウンジ**」を回遊する「**わかストリート**」を通じて、校舎全体を見渡しやすい平面計画を採用し、児童の状況を迅速に把握できるようにします。

■ 防犯性の高い学校

事故防止に配慮した駐車場と登下校を考慮した学校配置

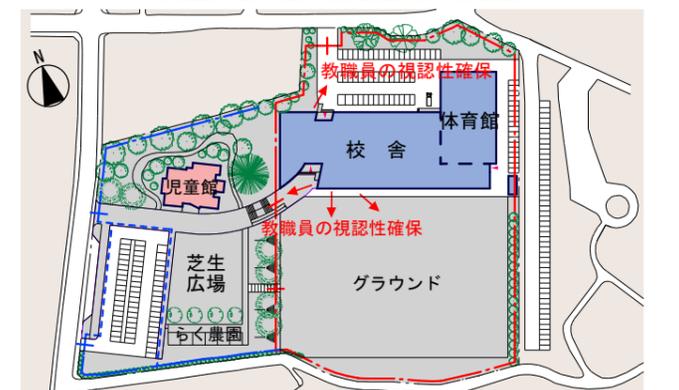
- 既存校舎の一部を駐車場および予備の駐車場としても利用可能な**プレイフィールド**に転用し、送迎車両の流れをスムーズにする計画とします。
- 駐車場はバス停車や乗降スペースを確保し、一般車両の動線と子どもたちの歩行動線を明確に分離、車止め等を設置して接触事故の無い安全な環境を提供します。
- 北側駐車場は職員や車いす利用者、通級教室利用者の送迎、緊急車両や体育館利用者にも対応できるように、多様な来校者の利便性と安全性を重視した計画とします。



【アプローチイメージ】

- **体育館と一体化した配置**により、避難時も全員の集合がしやすくなります。さらに、消防法や関係法規に基づいた安全設備のほか、停電時でも一定時間電源供給が可能なバックアップ設備を整備し、災害時の安心を確保します。

- 校舎までのアプローチには、緩やかな階段やスロープ、ベンチ、植栽ポットを配置し、**登下校が楽しくなる空間**を演出します。
- メインアプローチ前と北側駐車場の入口には施錠可能なゲートを設置し、登校時間後の安全管理を徹底します。
- 職員室は登校の様子や来校者、屋外運動場の状況を見渡せる位置に配置し、**児童たちに目が行き届く学校運営**を実現します。



—：車両進入制御ライン +：車両出入口 -：校舎特リライン +：校舎出入口

---：車止めによる制御ライン 【セキュリティライン計画イメージ】

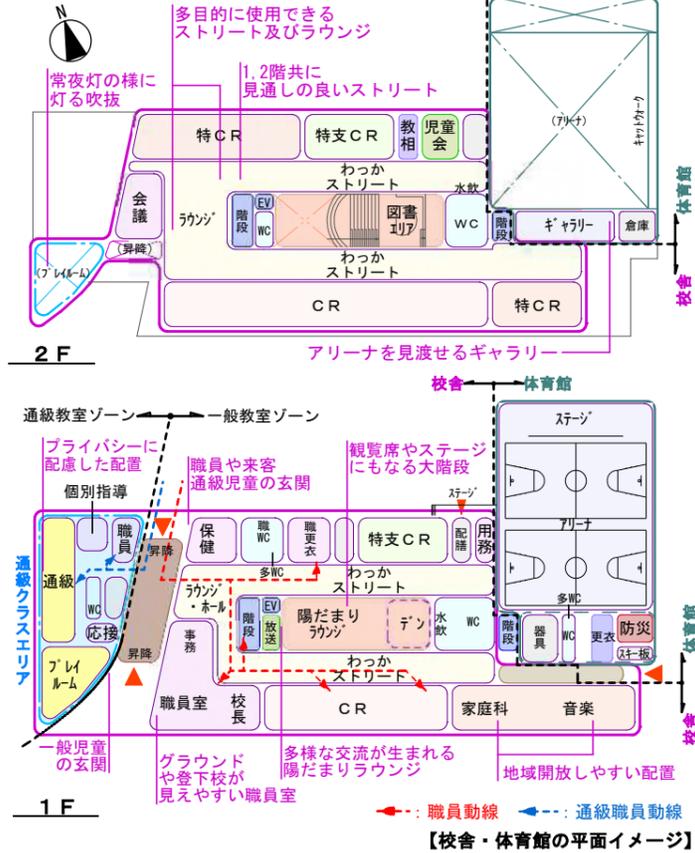
みんなの思いが息づく、共に学び成長する やわらかな学校

のへじの自然・文化と共に歩み、地域の風景そのものとなる未来シンボルの学校

■ 多目的な教室空間と合理的配慮が行き届いた学校

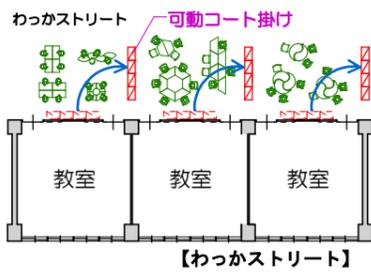
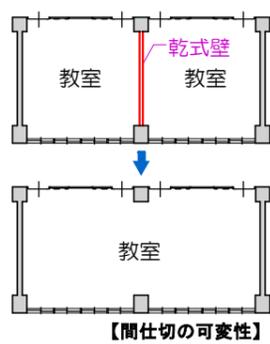
児童にやさしく多様なニーズに応える配置プラン

- 基本構想に基づき、管理部門および低学年クラスは1階に配置し、**その他の教室は2階**に配置します。音楽室は楽器の出し入れを考慮して1階に配置し、家庭科室も1階に設けます。家庭科室は災害時の炊き出しにも活用でき、地域開放にも寄与します。
- 昇降口は駐車場側と住宅街側の両方向に設け、児童の多様な登校環境に対応します。職員や来校者の出入りもスムーズです。
- 体育館と一体化した校舎は、児童がすぐに体を動かせる環境を提供し、授業間の移動もスムーズで、ストレスの少ない学校となります。



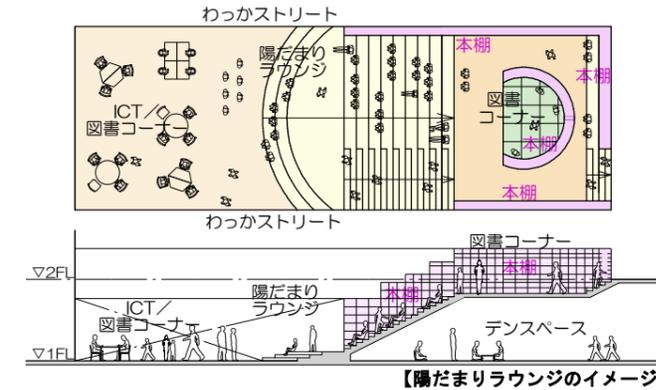
変化するニーズへ対応できる柔軟な空間設計

- 教室の間仕切りは、一部を乾式で撤去可能な形式を採用し、教室の再編成や施設の用途変更にも柔軟に対応できる設計とします。このフレキシブルな構造により、将来的には余裕教室を多様な用途に活用可能とし、学校の変化するニーズや利用効率の向上、長期的な視点での活用可能性を最大限に引き出す計画となります。
- 校舎は多目的利用を考慮した設計で、広い廊下「わっかストリート」は可動式コート掛けでゾーン分け可能であり、グループ学習や集会に対応する多用途オープンスペースです。



多様な使い方ができる「陽だまりラウンジ」

- 「陽だまりラウンジ」内の大階段は、発表や集会の場としても利用できる柔軟な空間となっており、階段周辺は**図書エリア**として開放的に設けられています。



交流、学び、心のケアが調和する校舎

- 「陽だまりラウンジ」を起点に低学年と中・高学年が中央で自然に交流ができる、心理的安定を促進する空間です。
- 吹抜け空間では、共に遊んだり、本を読んだりすることで、年上の子が年下の子を支える習慣や相互支援の精神が育まれます。
- 階段下には「デン」と呼ばれる落ち着けるスペースもあり、児童が心理状態に応じて過ごせる環境が整っています。

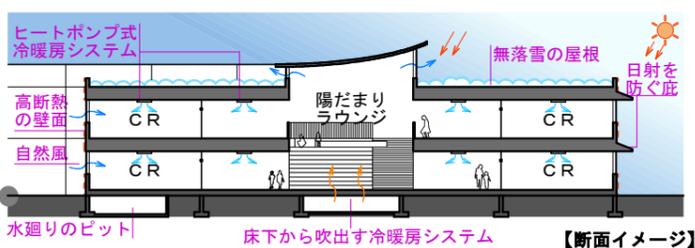


【ベンチコーナーのイメージ】

■ 良好な環境とバリアフリーが行き届いた学校

学習および生活の場、職場としての環境を整備

- 普通教室や職員室、校長室を南向きに配置し、採光を活かした快適な学びの環境を提供します。グラウンドとの連続性を確保し、屋内外の活動がスムーズに行える設計です。
- 通級指導が必要な児童には、**一般とは別のエリア**を設け、心理的に落ち着いた学びの場を提供します。特別支援教室は普通教室と同じエリアに配置し、隔たりなく支え合いながら学び、生活できる環境を作ります。
- 職員用の動線を短縮し、更衣室や休憩室を配置することで、教職員の働きやすさも考慮しています。
- 各階に多目的トイレを設置するなど、バリアフリーを徹底して多様性を尊重した平等な学びの場を提供します。
- 「陽だまりラウンジ」は自然光と換気を取り入れられる吹抜空間で、明るく爽やかな学びの場です。「陽だまりラウンジ」を中心に一体感を高め、大階段を活用した空間を提供します。



■ 利用しやすい学校

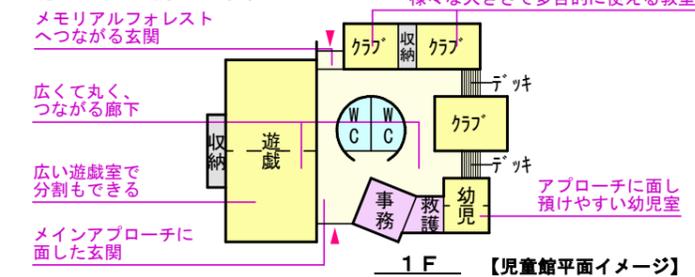
多様な目的で訪れる方への配慮

- 来校者の利便性と安全性を考慮し、**3ヶ所の駐車場と動線**を設計しています。職員や開校時間帯は**北側駐車場**を利用し、北昇降口から入館します。給食搬入車両やゴミ収集車両も北側入り口を使用し、配膳室や用務員室へのアクセスがスムーズです。
- **体育館利用者**は専用駐車場と入り口を使用し、スクールバス利用者は西側幹線道路沿いに安全な乗降場所を設けます。
- **送迎用駐車場**はスクールバス動線と分け、児童の安全を確保します。参観日や運動会時には、この駐車場に隣接する**プレイフィールド**を臨時駐車場として開放できるように計画します。
- 児童館の近傍には広い**プレイフィールド**や統合した小学校から移植した植栽・石碑等を配置できる**メモリアルフォレスト**を設け、校内外の活動に活用できる場とします。また、敷地西側の駐車スペースやプレイフィールドを地域イベントに利用しやすい場として確保します。
- **プレイフィールド**は、フットサルなど器具を必要としないスポーツやピクニックの場として活用し、安全で清潔な利用を促進します。ベンチや日陰の植栽を配置し、愛宕公園と併せて地域住民の憩いの場とする計画です。

日常的に交流できる空間

利用頻度を高める児童館の在り方

- 児童館が校舎と分離して配置され、かつ駐車場や緑地部分などの学校管理と一定の離隔が生ずることで、**閉校時でも児童館だけの運用が可能**となり、管理の仕方によって多様な活用ができる施設となります。
- **放課後児童クラブとして、多様に使える児童館**
- 児童館は、校舎昇降口を出て西側駐車場までのアプローチ沿いに計画することで、迎えを待つ児童らの待機場所として、使いやすく内外での活動をフォローできる空間とします。
- 児童館には、**広い遊戯室と3つの教室、幼児用スペース**を設けそれぞれ連携したり、個別活動のしやすいように大きさや隣接関係を変えて、ランダムに配置します。また、北側の**メモリアルフォレスト**へも自由に入出入りできるように、校舎と同様の南北に玄関を構えます。



■ 充実したICT環境

教室の映像設備の充実と可変性への配慮

- 教室は**ICT環境**に対応した設備を整備し、映像設備を充実させ多様な授業スタイルに対応できる環境を提供します。**可変的な教室設計**により、プロジェクター等を活用した視覚的学習やグループ学習が可能です。
- **タブレット**を活用した情報収集や学習活動が標準化され、**タブレット置き場や電気配線を集約したEPS**が設けられ、インフラの改変や追加が容易な構造となっています。これにより、学校全体でICT環境が整備され、より充実した学びの場が提供されます。



■ 地域の歴史や文化、自然に触れ合える学校

統合校の記憶を残し、野辺地の特産や県産材を活用する

- 既存の樹木園を極力残し、**メモリアルフォレスト**の整備により児童が地域の自然に触れ合える場を計画します。
- 新校舎内に統合校の記念品を展示し、地域と卒業校の思い出を感じられる空間を創出します。
- 野辺地は全国有数のホタテ生産地です。ホタテの貝殻は、粉碎して調湿機能に優れた建材として活用されています。これらを建築資材として有効に活用できる事例となります。
- **県産木材**を新校舎に採用し、視覚や嗅覚で郷土の素材を感じる空間を提供します。
- **学校農園**では花や地域特産のコカブを育て、地域の特色を体験できる場を提供します。これにより、**地元資源の持続可能な利用**を促進し、**児童の地域文化理解**を深め、**地域経済の活性化**に貢献します。



■ 災害時に必要な機能を備えた学校

防災機能を持った体育館と一体の校舎での高い利便性を確保

- 防災拠点としての機能を備えるため、体育館は避難場所として必要な設備を整え、校舎との接続面には高い断熱性能を持たせた避難所環境を提供します。
- 体育館は冬季の西風の影響を受けにくい東側に配置することで防寒対策がしやすい配置設計です。
- 校舎と体育館は**無落雪の屋根**を採用し、建物周辺に雪を落とさない設計により、除排雪が容易で安全性を高めます。雪庇対策も注力し、積雪による事故を防止します。
- 冬季の堆雪場所として、敷地内の駐車スペースやアプローチは**プレイフィールド**を活用する計画です。これにより、雪の影響を最小限に抑え、迅速な避難対応が可能となる計画です。

